島根県水産技術センター　　平成 26 年 8 月 28 日発行

トビウオ通信　漁況速報（7 月号）

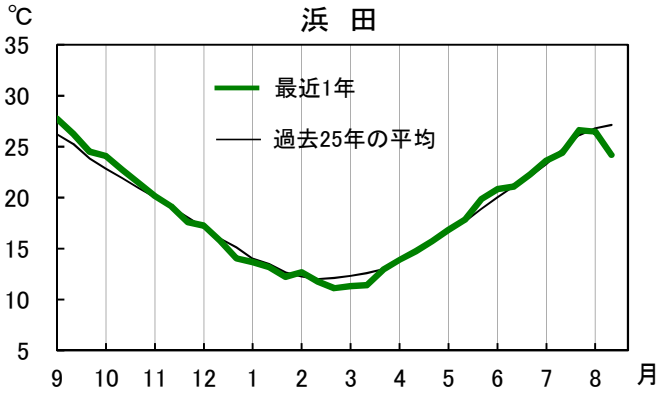
（本誌はホームページでもご覧いただけます。）

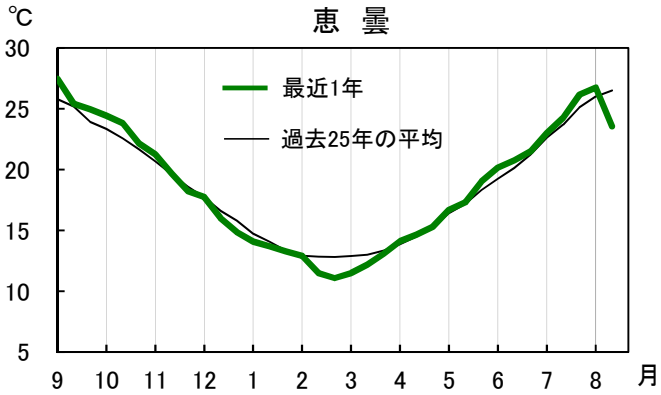
http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/　　（TEL 0855-22-1720）

《7～8月の海況》

7 月	月平均	平年差	評　価
浜田	24.9℃	+0.2℃	平年並み
恵曇	24.5℃	+0.6℃	平年並み

沿岸定地水温は、浜田地区では 7 月上旬から 8 月上旬にかけて「平年並み」で推移しましたが、8 月中旬に「かなり低め」に急転しました。一方、恵曇地区では 7 月下旬の「やや高め」を除いて、浜田地区と同様に 8 月上旬まで「平年並み」で推移し、8 月中旬に「かなり低め」に急転しました。





《7月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではマアジ主体の漁況で、1 統 1 航海当りの漁獲量は平年を下回りました。この時期主体となるマアジは平年の 6 割であり、特にサバ類はほとんど漁獲されませんでした。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ主体の漁況で、1 統 1 航海当りの漁獲量はそれぞれ平年並みとなりました。この時期主体となるマアジは西郷で平年の 1.7 倍、浦郷で 2.6 倍でしたが、イワシ類は一部を除いて平年並みか平年を下回りました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地 5 トン以上）では、前月に続きケンサキイカ主体（全体の 76%）で、スルメイカ（全体の 24%）も混じる漁況となり、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 176kg で平年並みでした。一方、西郷地区（属人 5 トン以上）ではスルメイカのみの漁況からケンサキイカ主体（全体の 99%）の漁況に切り替わり、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 32 kgで平年を下回りました。スルメイカの混じりは全体の 1%でした。

【ばいかご漁業】

石見地区のばいかご漁業における総漁獲量は 34 トン、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 825kg で前年、平年を上回りました。また主漁獲対象であるエッチュウバイの総漁獲量は 28.3 トン、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 690kg で前年の 1.2 倍、平年の 1.4 倍の水揚げとなり、好調に推移しました。銘柄「大」を主体に、銘柄「中大」、「中」が多く漁獲されています。

【しいら漬け漁業】

6 月から始まった石見地区のしいら漬け漁業はシイラ主体の漁況で、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 1.7 トンと平年の 2.1 倍となりました。主体となるシイラの漁獲量は平年の 2 倍となり、例年シイラとともに漁獲されるヒラマサは平年の 3 割の水揚げとなりました。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類、マアジ、ヒラマサ類主体の漁況で、1 統当りではサワラ類が平年の 3.5 倍だったものの、マアジを含むその他の魚種が平年を下回ったため、結果として全統の総漁獲量は平年を下回りました。出雲地区ではブリ、サワラ類主体の漁況で、1 統当りではブリ、サワラ類が平年並みだったものの、マアジ、サバ類を含む多くの魚種が平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。隠岐地区ではマアジ、ケンサキイカ主体の漁況で、1 統当りではマアジ、ケンサキイカが平年並みだったものの、ブリ、サバ類を含む多くの魚種が平年を下回ったため、全統の総漁獲量は平年を下回りました。

【釣・縄】

出雲地区ではケンサキイカ、マアジ、マダイが主に漁獲され、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 18 kgで平年を下回りました。石見地区でケンサキイカ、アマダイが主に漁獲され、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 16 kgで平年を下回りました。隠岐地区ではケンサキイカ、カサゴ・メバル類、キダイが主に漁獲され、1 隻 1 航海当りの漁獲量は 19 kgで平年を下回りました。

【平成 26 年 7 月の漁獲統計】

漁業種類	水揚港	主要魚種	総漁獲量			CPUE（1 隻（統）1航海当り漁獲量）			漁模様
			漁獲量	前年比 %	平年比 %	漁獲量	前年比 %	平年比 %	
中型まき網	浜田	マアジ	182 トン	94%	48%	5.5 トン	88%	52%	▲
	西郷	マアジ	3,401 トン	198%	135%	31.8 トン	122%	111%	○
	浦郷	マアジ	2,443 トン	176%	179%	28.4 トン	102%	110%	○
イカ釣り（5トン以上）	浜田	ケンサキイカ、スルメイカ	56 トン	166%	195%	176kg	64%	136%	○
	西郷	ケンサキイカ	4 トン	74%	52%	32kg	79%	62%	▲
ばいかご	大田管内	エッチュウバイ	34 トン	150%	111%	825kg	128%	146%	◎
しいら漬け	和江	シイラ	30 トン	153%	127%	2.0 トン	122%	243%	◎
定置網（大型）	浜田	サワラ類	20 トン	95%	69%	1.5 トン	80%	150%	◎
	美保関	サワラ、ブリ、マアジ	39 トン	45%	35%	391kg	48%	37%	▲
	浦郷	マアジ、ケンサキイカ、ホソトビウオ	16 トン	53%	41%	607kg	53%	42%	▲
釣り・縄	仁摩	ケンサキイカ	9 トン	98%	63%	21kg	90%	81%	▲
	大社	ケンサキイカ、サワラ類、カサゴ・メバル類	6 トン	178%	97%	14kg	110%	94%	○
	西郷	カサゴ・メバル類、ケンサキイカ	5 トン	105%	44%	21kg	86%	74%	▲

平年比：過去 5 年（沖底のみ 10 年）の平均値との比較　　漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が 0Kg（ほぼ 0Kg）のものは全てをー、前年の漁獲量が 0Kg（ほぼ 0Kg）のものは前年比をー、平年の漁獲量が 0Kg（ほぼ 0Kg）のものは平年比をーとした。

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成26年8月27日

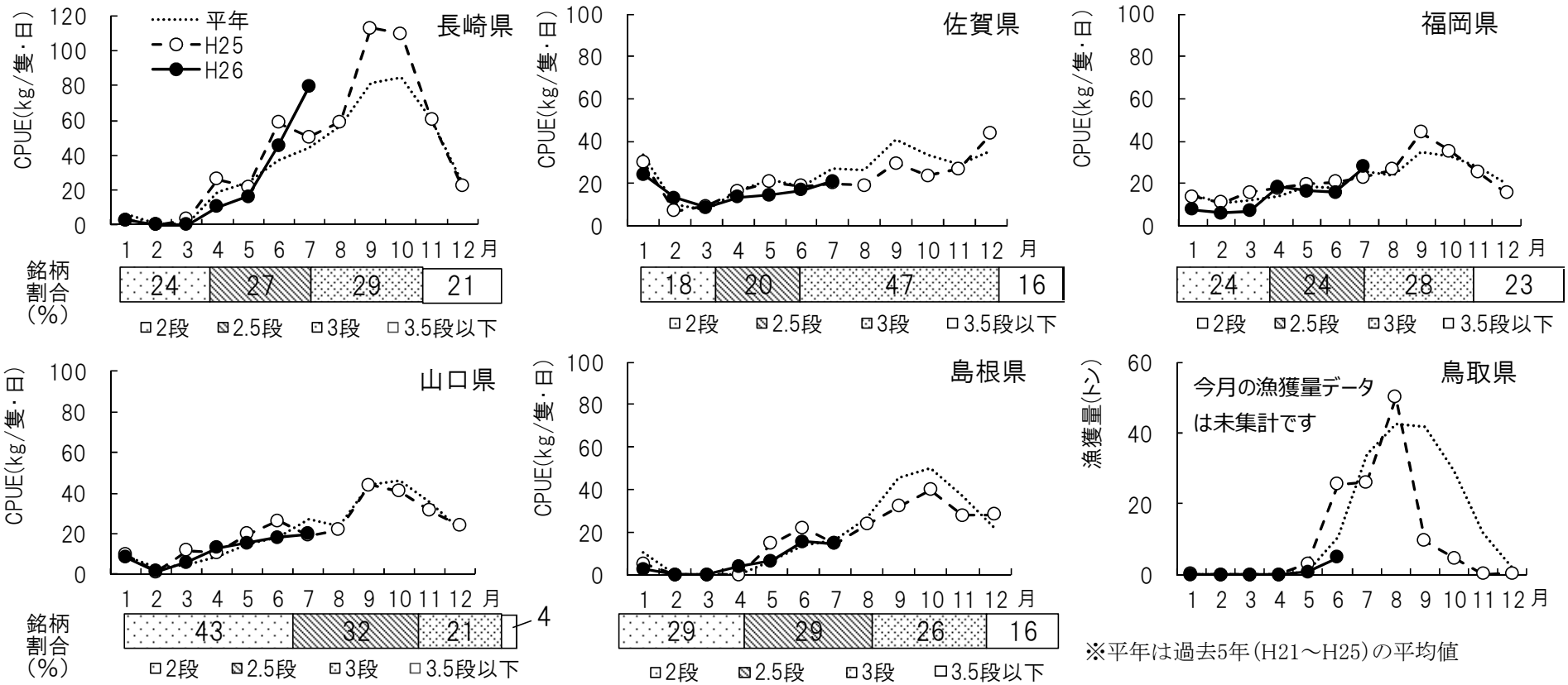
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ（地方名：マイカ、シロイカ）の情報（各地の漁況と底層水温）です。

Ⅰ：7月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

CPUEでみると、長崎県は好調のようですが、佐賀県以東は平年並み～下回る漁況のようです。

長崎県	7月の漁獲量は前年・平年並みでした(前年比88%、平年比93%)。	佐賀県	標本港の水揚量は前年並みで、平年を下回りました（前年比96%、平年比58%）。	福岡県	代表港の7月のCPUEは平年並みに回復しましたが、漁獲量は前年比113%、平年比82%でした。また1～7月の累積漁獲量は前年比72%、平年比72%と6月に引き続き低調に推移しています。
山口県	代表2港の漁獲量は前年並みで、平年を大きく下回りました（前年比115%、平年比47%）。	島根県	**主要7港の水揚量は70トンで、前年・平年並みでした（前年比110%、平年比107%）。**	鳥取県	7月の漁獲量は集計中ですが、6月までの漁獲量は好漁だった前年及び平年の値を大きく下回りました（前年比21%、平年比50%）。



※平年は過去5年（H21～H25）の平均値

Ⅱ：8月上旬の底層水温

長崎県	観測を行っていません。	佐賀県	壱岐水道は21.9～23.5℃で平年並み、対馬東水道は15.8～21.2℃で平年並みでした。	福岡県	沿岸域の底層水温は21～23℃台でやや低めから平年並み、沖合域の底層水温は15～19℃台で平年並みからやや高めとなっています。
山口県	底層水温は5～21℃台で、冷水域を除きほぼ平年並みでした。	島根県	水深200m以浅では、温泉津沖は2～7℃でやや低め～平年並み、高山沖は2～20℃で平年並み～やや高めでした（ただし、最も沖合の定点はやや低め）。	鳥取県	島根県東部から鳥取県西部の水深100mの海域の水温は16℃前後。隠岐諸島東側海域に冷水塊があるため鳥取県東部海域の水深100mの海域の水温は12～15℃の値となっています。

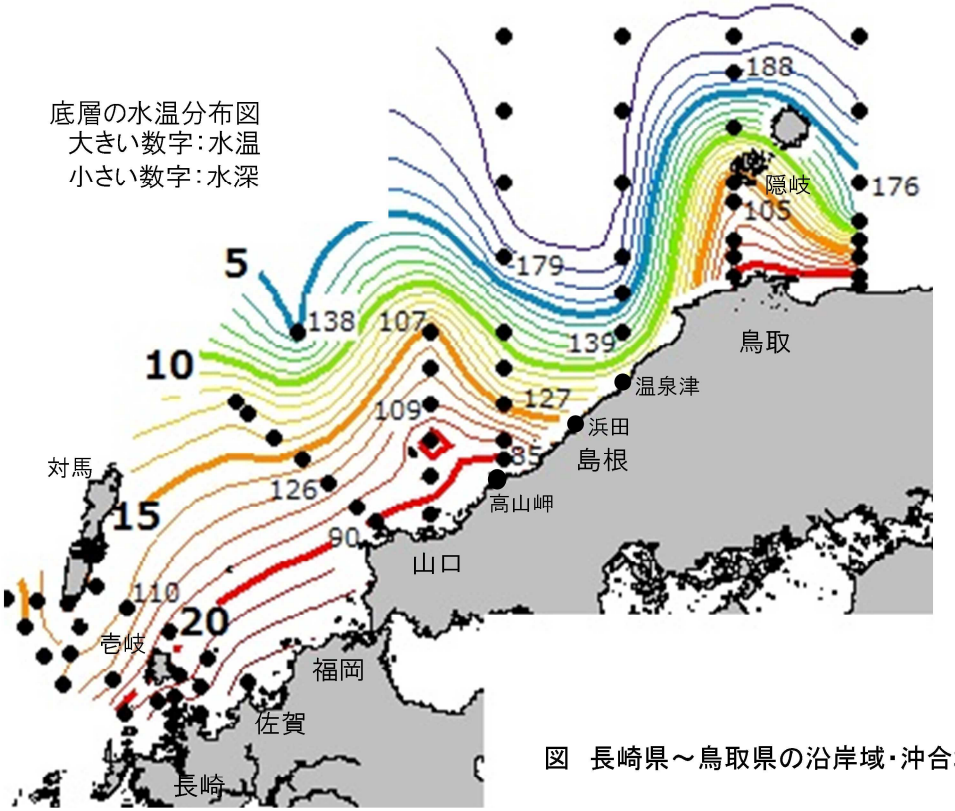


図　長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図